

第2分科会**「インクルーシブな社会で育つ」****～権利条約から読みとく教育、社会参加～
に参加して****難波支援学校支部 長谷川 美智代**

第2分科会では、全国手をつなぐ育成会連合会政策委員の又村あおい氏がコーディネーターを務めるシンポジウムが開催され、教育と就労の分野から4名の方がシンポジストとして登壇されました。

最初に、又村氏が、「障害者権利条約における教育の位置づけ」について話されました。

権利条約では、他の分野と比べて教育について多くの記述がなされており、その内容は、「障害者が精神的、身体的な能力等を可能な最大限まで発達させ、自由な社会に効果的に参加すること等を目的として、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度や生涯学習を確保すること」とあり、また、その権利の実現にあたり、「障害に基づいて一般的な教育制度から排除されないこと」、「個人に必要とされる合理的配慮が提供されること」、「完全な包容という目標に合致する効果的で個別化された支援措置が取られること」等、インクルーシブな教育システムの構築を求めているとの説明がありました。そして分科会のテーマである「インクルーシブな社会で育つ」ということは、教育の場面はもちろんのこと、就労の場面においてもインクルーシブであることが求められます。それには、働く場面を見据えながらの教育現場の取り組みが大切で、この分科会が、障害者権利条約を手がかりに教育から社会参加を考える場になればと前置きされました。

1人目のシンポジスト、神奈川県教育局インクルーシブ教育推進課の田中氏からは、神奈川のインクルーシブ教育の推進についてのお話がありました。

これまでは個別の教育的ニーズには対応してきたが、共に学ぶ取組は十分でなかったことを課題とし、今後の取組として障がいのあるなしにかかわらず、できるだけ地域の学校で学ぶ仕組みを作り、小中学校での「みんなの教室」(通常学級在籍の支援が必要な子どもも対象)のモデル事業の実施、高校改革におけるインクルーシブ教育実践推進校(パイロット校)での障がいのある生徒の受入体制の整備、多様な教育的ニーズに応じた教育の充実等を挙げられました。

続いて2人目のシンポジスト、青森県教育庁特別支援教育推進室の菊池氏からは、キャリア教育のあり方についてのお話がありました。

キャリア教育とは、障がいの状況が比較的軽度の子ど

もの就職活動に限定されるのではなく、一人一人のキャリア発達を促し、社会的な自立を育てる教育であり、特別支援学校では、重度、重複障がいのある児童生徒の将来を見据えた適切な指導及び支援が進められてきている。また、自立し社会参加していくうえで、地域の中で役割を担い、人の役に立つ実感を得ることは重要で、小学部段階から働く経験を繰り返す「ふれジョブ」は、早期から地域全体で障がいのある児童生徒を理解し、支援の充実につながる取組だと話されました。

3人目のシンポジストはAネット代表、社会福祉法人進和学園の久保寺氏より、就労継続支援A型事業所の現状と課題についてのお話がありました。

この数年で著しく増加したA型事業所の中には、仕事内容や労働時間、職員配置等に問題がある悪質な事業所もあり、その状況に危機感を持ち、A型事業所の健全な発展のために全国組織のNPO法人Aネットを立ち上げた経緯や取り組み等の説明をされました。

最後の4人目のシンポジストは、千葉県の就業・生活支援センター連絡協議会会長の藤尾氏でした。

就業・生活支援センターは、障がいのある人の「仕事」と「暮らし」を支える役割を担っており、現場における合理的配慮については、働く側がしっかり意思表示しなければならぬことや配慮はずっと同じものではなく、年齢や本人のレベルアップ等状況によって変わるものであると話されました。

「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育がめざすものは、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が生き生きと生活できる共生社会の実現です。そのためには、教育の現場のみならず、地域社会と繋がり取り組んでいくことが大切であることを改めて学んだ分科会でした。

第3分科会**「自分らしさを発揮して生きる」****～可能性を引き出す支援の実践～ に参加して****港総括施設長 角森 佐岐子**

第3部会は、音楽や創作で自己表現をする方たちを支援されているシンポジストからの実践報告でした。

まず、会場に入った瞬間、「えっ、ここが分科会会場？」と驚かされました。立派な舞台には、ドラムやキーボード、照明も音響設備も本格的でコンサート会場のような様子でした。そして、舞台上には一際目を引くオブジェが……。studio COOCA所属の伊藤太郎さんが製作された『辻太郎の招福くまで』です。施設長の隣に座った伊藤氏は、実践報告になんの興味もなさそうにずっとスマホをいじっていましたが、自分の出番になると両手にミ